



細菌検査から

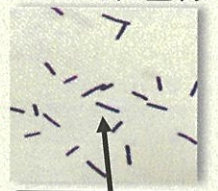
CDトキシンの検査ってなに？

CDトキシンは、*Clostridioides (Clostridium) difficile* (以下*C. difficile*)より産生される毒素です。抗菌薬投与により、腸内細菌叢が乱れ*C. difficile*が増殖し、毒素により偽膜性大腸炎や*C. difficile*関連下痢症・腸炎を発症します。

C. difficile

- 嫌気性グラム陽性桿菌で芽胞を形成します。
- 健常人の5~10%保菌しています。
- 芽胞を形成すると、アルコールなどの消毒薬や抗菌薬に耐性を示し、環境中で長期間生存できます。医療従事者は便の取り扱い後、手指衛生を行い感染対策を徹底する必要があります。
- 毒素産生株と毒素非産生株があります。

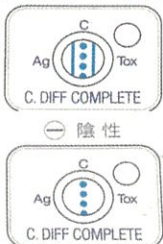
グラム染色像



C. difficile

当検査室では、CDトキシン陰性、*C. difficile*抗原陽性の場合、CDトキシン偽陰性の可能性を考慮し、再検査を実施しています。再検査の際は、*C. difficile*を選択的に培養後検査を行うため、結果報告まで1~2日間要します。

⊕ 抗原/トキシン陽性



1~2日間
培養



発育したコロニーを
採取し再検査



症状消失後も*C. difficile*の排菌は続くため、効果判定を目的とした検査は推奨されていません。

容器間違いに注意してください!!!

CDトキシンの容器と便培養の容器間違いが多く見られます。容器間違いに注意して採取してください。採取容器は以下の通りです。



蓋付の
緑容器
(生便)

CDトキシンの容器



便培養の容器

シードスワブ1号

問い合わせ：細菌検査室 内線1521

